

第48期 決算のご報告 2006年4月1日から2007年3月31日まで

BUSINESS REPORT JEM TODAY



 日本電子材料株式会社

証券コード:6855

さらなる世界規模の成長を目指す、 3年間でスタートします。

売上高・経常利益ともに過去最高を記録。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。2006年度(2006年4月1日～2007年3月31日)の営業の概況と決算のご報告をいたします。2004年版中期経営計画「Break Through for 2006!」では、最終年度の売上目標130億円に対し、初年度に125億円まで実現。最終年度である2006年度には160億円を突破いたしました。中期計画で戦略的拡販を行ったアドバンスプローブカード VC(垂直接触型)、VS(垂直スプリング接触型)シリーズの売上は大きく拡大し、DRAM・フラッシュ

メモリー・システムLSI向けなど様々な半導体デバイスへの用途拡大がこの好成績を牽引しました。一方、Cタイプ(カンチレバー型)の需要も依然として高く、これらの市場ニーズを見直すことで今後も有力な商品になると考えています。こうした状況の中、2006年度売上高は162億1千6百万円(前期比17.8%増)、経常利益は28億4千3百万円(同33.9%増)となり、売上高・経常利益ともに過去最高を記録しました。

アジア諸国に確固たる販売体制を確立。 JEMシンガポールの営業開始。

世界の半導体市場は2008年の北京オリンピックへ向けて、10%前後のゆるやかな上昇が見込まれます。海外市場への拡販を重点方針としている当社ですが、既存顧客である国内の半導体メーカーに対しても、新たなニーズの領域を開拓していくことで堅調に売上を伸ばしていきたいと考えています。海外戦略におきましては、海外売上高比率50%以上を目標としており

ますが、そのキーはアジアでの生産力・販売力の強化にあるとの考えのもと、JEM台湾、同和JEM(韓国)、JEM上海に加え2007年1月にはJEMシンガポールの営業を開始いたしました。

新たな中期経営計画のもとMタイププローブカードが始動。 売上高1.5倍の成長を目指す。

2007年度から新たな中期経営計画「Innovating Global Success!」がスタートいたします。

この中でも一番の重点戦略は、Mタイププローブカード(MAシリーズ、MCシリーズ)の本格的市場参入です。これに備え、2007年4月にはJEMファインテック株式会社(合弁会社)を設立。Mタイププローブカードのプローブユニットの開発・生産拠点として、大きな役割を果たします。次に既存製品をさらに進化させます。アドバンスプローブカードではVCシリーズの300mm一括対応とVSシリーズの更なる狭ピッチへの挑戦。カンチレバー型のCEシリーズでは新針材を使用したプローブ

MAシリーズ(MEMS技術微細高密度プローブカード)、MCシリーズ(MEMS技術大領域高密度プローブカード)

カードの展開を進めます。また、顧客満足度の向上にも注力します。海外も含めた顧客のもとに当社エンジニアを積極的に派遣することで、セットアップやリペア、総合的な技術に関するフィールドサポート体制を強化し、製品の質とともにサービスの質も向上させていきます。具体的な数値目標としましては、中期計画の最終年度となります2009年度には、連結売上高は現在の1.5倍の250億円、新事業の売上高は現在の2倍の50億円を目指し、海外売上高の比率も50%以上に引き上げます。

株主の皆様へ

株主の皆様へはここ数年、年間プラス10円の記念配当を続けております。今期の配当も上場10周年の記念配当10円を含め、年間30円となりました。これに加え、昨年9月末の株主の皆様へは株主優待として、熊本県産『七城のこめ』をお贈りいたしました。アンケートで予想以上のご好評のお言葉をいただきましたことを、心より感謝いたします。今後もこうした優待を続けていきたいと考えております。今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 坂根英生



プローブカード

半導体使用製品の増加・用途の多様化とともにますます需要の高まる、当社の主力製品。

プローブカードとは？

近年需要が拡大している携帯音楽プレーヤーや、携帯電話、薄型テレビやデジタルカメラなど、様々な分野の製品に応用が拡大されている半導体。この半導体の検査に欠かせないのが、当社の主力製品「プローブカード」です。

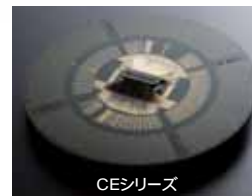
半導体の用途の多様化とともに需要が拡大

当社は1970年、このプローブカードの製造を日本で初めて開始。以来順調に成長を続け、国内をはじめアジア、アメリカ、ヨーロッパの市場に製品を供給しています。

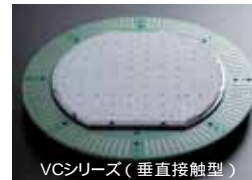
常に安定した需要

プローブカードは、テストする半導体の仕様に合わせて個別に設計、製造される特注品。そのため、半導体のモデルチェンジの都度それに応じたプローブカードが新規に製造されます。

カンチレバー型プローブカード



アドバンスプローブカード



電子管部品

1960年の創業以来、品質・信頼性・性能において高い評価を受け続ける電子管部品。

創業以来愛され続けるJEMの電子管部品

当社は1960年の創業以来、ブラウン管用ヒーター、カソード等の製造に取り組み、現在ではハイビジョンを含むテレビ用、コンピューター用、測定用そしてレーダー用など、幅広いディスプレイ用途のニーズに応えています。

CRTヒーター



プローブカードの活躍場所 ~ウエハテスト~

携帯電話にパソコン、液晶テレビや携帯用音楽プレーヤー…。

家庭からオフィスまで、私たちの身の回りにはエレクトロニクス技術を活用した製品が溢れています。これらの機器で最も重要な役割を果たしている部品が半導体です。

半導体の良品・不良品を判別

プローブカードは半導体の良品・不良品を判別するテスト工程で使用されます。これはシリコンウエハ上に作られた多数の半導体チップの一個一個が正しく作動するかどうかを調べるテストであり、これを『ウエハテスト』と呼びます。

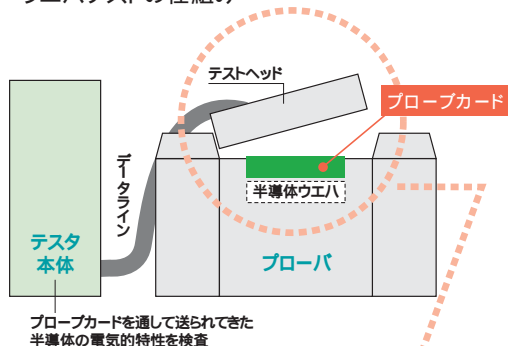
ウエハテストの流れ

ウエハテストは、シリコンウエハ上にマス目で作られた半導体チップを一個一個に切断する前に行われるものです。テストからの電気信号をウエハ上の半導体チップの電極(ボンディングパッド)に接続しているプローブカードのプローブ(針)を通して、電気的検査を実施。ウエハ上の半導体すべての良否を判別します。

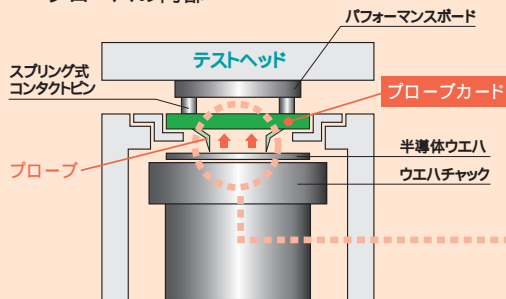
微細なプローブに求められる正確性

半導体チップ上の電極は数十ミクロンの間隔で作成されている場合が多く、プローブカードのプローブ(針)はそれらの電極の位置に合わせて正確に配置されています。

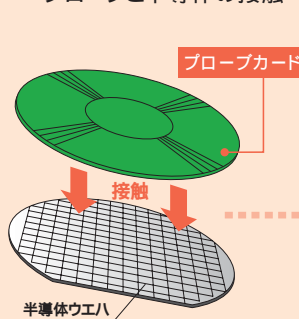
ウエハテストの仕組み



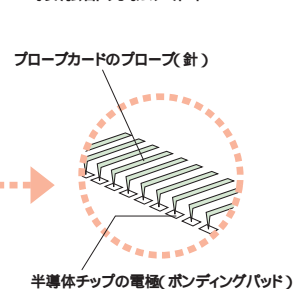
プローバの内部



プローブと半導体の接触



プローブと半導体の接触部分拡大図

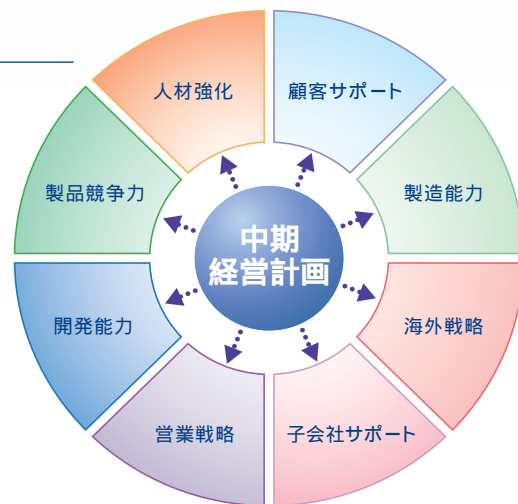


Innovating Global Success! スタート

基本戦略

製品競争力、グローバル展開を強化。 総合No.1を目指します。

『Innovating Global Success! ～グローバル展開へのイノベーション～』をスローガンに3年間の中期経営計画をスタートさせます。Mタイプの事業化と既存製品の性能進化による製品競争力の強化に加え、海外拠点やアジア生産拠点との連携を一層高め、フィールドサポート体制を強化。業界での総合No.1を目指します。



中期目標

連結売上高

連結売上高 2009年度 250億円

連結売上高は2007年度176億円、2008年度210億円、2009年度には250億円を目指します。

経常利益

連結経常利益率 常に10%以上

Mタイプの開発負担は既存製品の競争力と顧客満足度の向上によりカバーし、経常利益率10%以上を確保します。

プローブカード世界シェア

プローブカード 世界シェア 20%

Mタイプの本格的市場参入と既存製品の競争力強化、ロジックシェア世界一の堅持とDRAM市場への再参入をはかり、世界シェア20%を目指します。

海外比率

海外比率 50%

海外拠点への人的、技術的サポートを強化することと、アジア市場での優位性を確立することにより海外比率を向上させます。

新事業売上高

新事業売上高 50億円

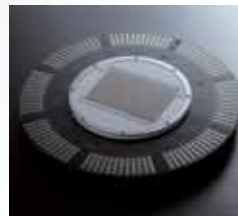
営業面と技術面から既存製品を進化させ、New Businessの展開とあわせて2009年度売上高50億円を目指します。

Mタイプの事業化

2007年度より本格的に市場参入するMタイププローブカード。売上高計画としては2007年度9億円、2008年度40億円、2009年度70億円の達成を目指します。そのため、2007年4月に設立したJEMファインテック(株)を本格稼働させ、全社グループを挙げて取り組んでいきます。



MA ロジック向け(LCD-Dr, SoC)



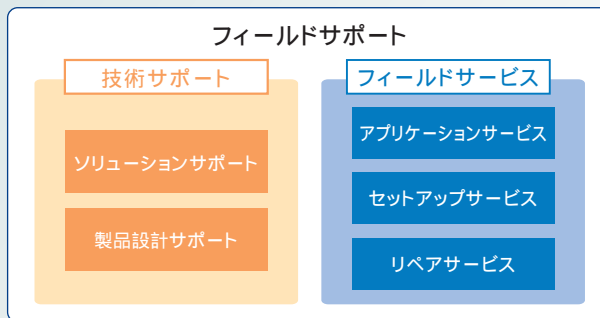
MC メモリー向け(DRAM, FLASH)

既存製品の進化

Vタイプに対するニーズを見直し、改良を図ります。
また、同じくCタイプに関する需要の掘り下げも平行して行います。

顧客満足度の向上

社内エンジニアの役割をさらに強化し、顧客との接点を強いものにするため、国内、海外ともにフィールドサポートの体制を強化します。セットアップやリペアなどのフィールドサポートはもちろん、ソリューションサポートや製品設計までを担当することで、製品の品質と同時に顧客へのサービス品質も高めていくことが狙いです。



新事業の拡大

VEシリーズ(CMOS向け、瞳モジュール搭載プローブカード)の拡販を続けながら、パラメトリック市場向けの拡大をはかります。

TOPIC 1

アジア市場拡販の拠点として

2006年10月 JEMシンガポール株 設立



今、世界のものづくりの中心地はアジアであり、多くのヨーロッパ半導体企業などが東南アジアに進出し、ファウンドリー（製造専門の工場）へ委託生産を行っています。また、新たに工場を建設する進出企業も後を絶ちません。当社では早くよりこうした国際市場の流れを読み、中国、台湾、韓国にそれぞれ製造・販売拠点を設置してまいりました。アジアの中でも特に中国語圏における半導体市場の要として、何としても外すことができないのがシンガポールです。こうした流れを受け、当社は2006年10月、シンガポールの販売代理店「Hy-Cad（ハイキャド）社」と共同で合弁会社を設立。2007年1月に営業を開始いたしました。現在のところは台湾を除く東南アジアにおける当社製品の修理・メンテナンスが主な業務となっていますが、今後はプローブカードを生産・販売し、その売上と知名度を伸ばしていくことで東南アジアにおけるグループの中心的存在に位置づけたいと考えています。

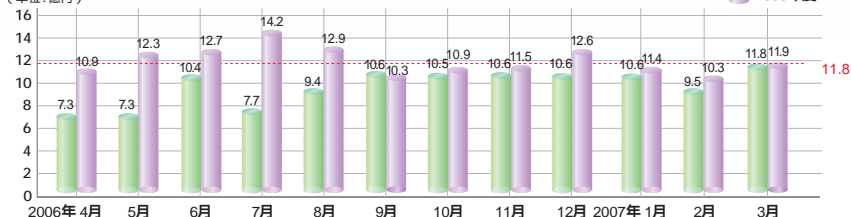


TOPIC 2

2006年5月・6月・7月 3カ月連続で月次売上高の 最高額更新(単体)

大幅な需要増に伴い、3カ月連続で月次売上高の最高額を更新しました。

月次売上高の推移(単体ベース)
(単位:億円)



TOPIC 3

個人投資家向け会社説明会開催

本年度は東京・大阪・名古屋にて計5回の個人投資家向け会社説明会を開催。「成長し続ける創造型企業をめざして」をテーマに、社長の坂根がプローブカード業界の現状や事業戦略などをご説明しました。



TOPIC 4

株主優待実施

2006年9月末の株主の皆様には、日頃の感謝の気持ちとして初の株主優待を実施。当社主力工場がある熊本県七城町名産の「七城のこめ」をお送りしましたところ、多くの株主の皆様からご好評をいただきました。



七城のこめ

TOPIC 5

国際展示会「SEMICON」に出展

世界最大の半導体製造装置・材料の国際展示会「SEMICON」に出展しました。2006年9月に開催の「SEMICON Taiwan 2006」では子会社のJEM台湾も出展。また同年12月に幕張メッセで開催された「SEMICON JAPAN 2006」は過去最大のイベントとなり、世界各国1600社が参加するなか、当社ブースにもたくさんの方が来場されました。



Mタイププローブカードの開発・生産拠点として JEMファインテック株式会社設立

現在、プローブカードには多くの技術課題がありますが、その一つに、プローブ(針)の微細化があります。プローブの微細化要求は半導体デバイスの微細化の発展と共に進み、今後の半導体業界を支える重要な技術課題のひとつとなっています。

このような状況に対応するため、当社では次世代型プローブカード『Mタイプ』の開発を進めており、2007年度より本格的に市場参入していく予定です。今後のプローブカード市場の主流となることが予測されるこの『Mタイプ』の事業化促進のため、当社は2007年4月、兵庫県に「JEM

ファインテック株式会社」(合弁会社)を設立しました。

これまでプローブの材料は外部に頼っていた当社ですが、新方式のMタイプではこのプローブ部分も自社製作が可能。今後の微細化、大口径化、そして低針圧化といった数多くの技術課題に応える重要な開発・生産拠点として、JEMファインテックは大きな役割を担います。



Mタイプ プローブカード とは?

従来のプローブカードは、搭載されるプローブ(針)を手作業で並べていました。Mタイプは、MEMS技術を応用し、必要な部分に必要なプローブを機械的に作成します。

品質の向上と同時に、手作業では不可能なレベルの超微細のプローブ製作も行え、電子機器の小型化が進む近年の半導体市場で大いに期待される新技術です。



MEMS技術.....写真製版技術等を応用した新方式プローブ作成技術。

世界に広がる生産・販売拠点と研究開発のグローバルイゼーション

エレクトロニクス産業の国際化に対応して、JEMでは先駆的に海外に生産・販売拠点を設けてきました。顧客に近接する事により顧客ニーズに即応するということと、コスト競争力を実現するためのグローバルロジスティクスがこの背景です。JEMは、アメリカ・中国・台湾・韓国・ヨーロッパ・シンガポールに生産・販売拠点を持ち、グローバルサポートを強力に推進しています。



国内事業所

| | | |
|-----------|-----------|--|
| 本 社 | 〒660-0805 | 兵庫県尼崎市西長洲町2丁目5番13号 TEL.06-6482-2007 |
| 本 社 工 場 | 〒660-0805 | 兵庫県尼崎市西長洲町2丁目5番13号 |
| 熊 本 工 場 | 〒861-1344 | 熊本県菊池市七城町蘇崎1396番5号 |
| 東 京 営 業 | 〒210-0005 | 神奈川県川崎市川崎区東田町8番 パレール三井ビルディング16F |
| 静 岡 営 業 | 〒424-0886 | 静岡県静岡市清水区草薙2168-1 |
| 東 北 出 張 所 | 〒980-0021 | 宮城県仙台市青葉区中央4丁目7番17号 ベルザ仙台ビル11F |

業績の推移(連結)

(単位: 億円)

| 決算期 | 2004年度 | 2005年度 | 2006年度 |
|---------------|----------|----------|----------|
| 売上高 | 125.4 | 137.6 | 162.1 |
| 営業利益 | 20.5 | 20.4 | 28.3 |
| 経常利益 | 20.6 | 21.2 | 28.4 |
| 当期純利益 | 12.3 | 13.6 | 17.6 |
| 1株当たり当期純利益(円) | 144.83 | 123.37 | 166.70 |
| 総資産 | 132.8 | 150.6 | 170.2 |
| 純資産 | 97.0 | 110.3 | 124.0 |
| 1株当たり純資産(円) | 1,183.80 | 1,035.95 | 1,171.81 |

2005年5月18日付で1株を1.3株に株式分割しております。1株当たり情報は2006年度は株式分割後の株式数、それ以前は株式分割前の株式数により算出しております。記載金額未満は切り捨てて表示しております。

ポイント

売上・収益動向

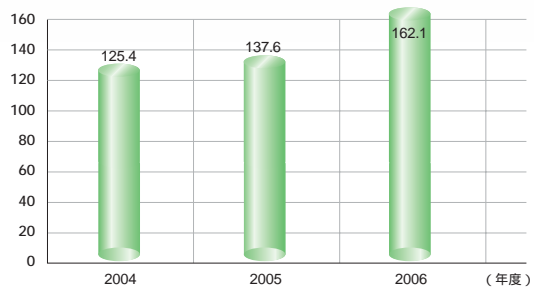
メモリー向けは、下期に入りフラッシュメモリーの大幅な価格下落の影響を受け好調に推移していたフラッシュメモリー向けが10月以降横ばいとなりましたが、DRAM向けはVCシリーズを中心に売上を拡大しました。ロジック向けは、携帯電話などの在庫調整の影響を受けLCD-Dr向けなどが低迷しましたが、システムLSI向けではアドバンスプロブカードVSシリーズ、および難易度の高いICタイププロブカードが好調に推移しました。以上の結果、当連結会計年度の売上高は162億1千6百万円(前連結会計年度比17.8%増)、利益面は生産効率の上昇により、営業利益は28億3千万円(同38.1%増)、経常利益は28億4千3百万円(同33.9%増)、当期純利益は17億6千5百万円(同28.9%増)となり、売上高、経常利益、当期純利益共に過去最高額となりました。

財務動向

当連結会計年度における連結ベースの現金および現金同等物は、売上増加に伴う売上債権の増加3億8千9百万円、法人税等の支払額8億9千3百万円、有形固定資産の取得8億1千2百万円等の要因による支出はあったものの、当社グループの業績が好調に推移したことから、税金等調整前当期純利益が28億1千3百万円と増加したこと等により、前連結会計年度に比べ、7億8千8百万円増加し、当連結会計年度末には44億3千5百万円(前連結会計年度比21.6%増)となりました。

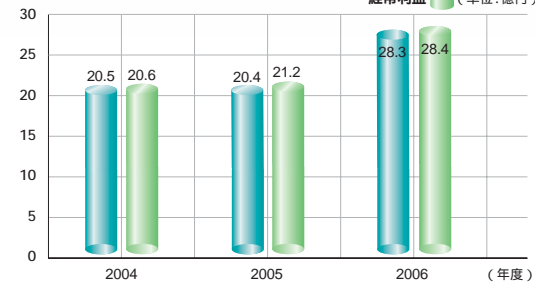
売上高

(単位:億円)



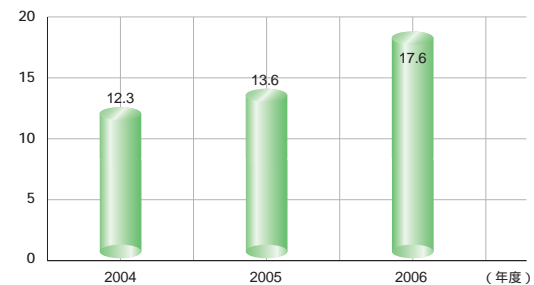
営業利益・経常利益

営業利益
経常利益 (単位:億円)



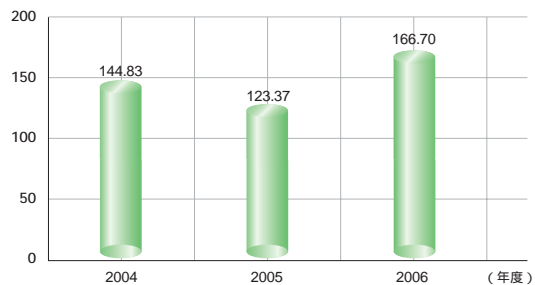
当期純利益

(単位:億円)



1株当たり当期純利益

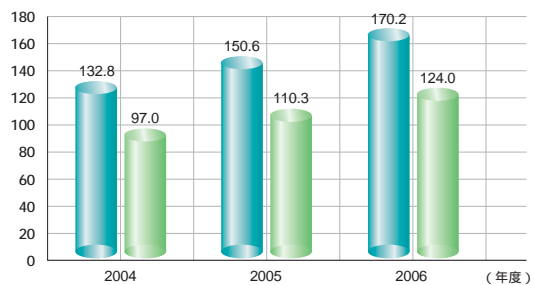
(単位:円)



2005年5月18日付で1株を1.3株に株式分割しております。

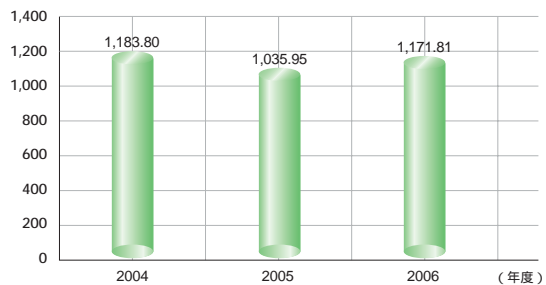
総資産・純資産

総資産 純資産 (単位:億円)



1株当たり純資産

(単位:円)



2005年5月18日付で1株を1.3株に株式分割しております。

財務諸表(連結)

貸借対照表

(単位：千円)

| 科 目 | 前連結会計年度 (2006年3月31日現在) | 当連結会計年度 (2007年3月31日現在) |
|-----------|---------------------------|---------------------------|
| [資産の部] | | |
| 流動資産 | 10,629,022 | 11,956,558 |
| 現金及び預金 | 3,836,731 | 4,665,265 |
| 受取手形及び売掛金 | 5,384,513 | 5,789,363 |
| 有価証券 | 260,856 | 243,660 |
| たな卸資産 | 942,567 | 1,009,244 |
| 繰延税金資産 | 127,548 | 140,394 |
| その他 | 102,503 | 122,673 |
| 貸倒引当金 | 25,698 | 14,042 |
| 固定資産 | 4,433,882 | 5,070,194 |
| 有形固定資産 | 2,960,381 | 3,282,964 |
| 建物及び構築物 | 658,202 | 646,086 |
| 機械装置及び運搬具 | 632,351 | 808,025 |
| 工具器具備品 | 728,210 | 1,104,944 |
| 土地 | 480,949 | 455,847 |
| 建設仮勘定 | 460,668 | 268,060 |
| 無形固定資産 | 115,971 | 330,864 |
| 投資その他の資産 | 1,357,529 | 1,456,366 |
| 投資有価証券 | 1,129,470 | 1,213,728 |
| その他 | 229,237 | 243,617 |
| 貸倒引当金 | 1,178 | 980 |
| 資 産 合 計 | 15,062,904 | 17,026,753 |

| 科 目 | 前連結会計年度 (2006年3月31日現在) | 当連結会計年度 (2007年3月31日現在) |
|-----------------|---------------------------|---------------------------|
| [負債の部] | | |
| 流動負債 | 3,428,745 | 4,013,032 |
| 支払手形及び買掛金 | 2,206,220 | 2,012,696 |
| 短期借入金 | 110,000 | 150,000 |
| 未払金 | 276,712 | 357,211 |
| 未払法人税等 | 353,370 | 506,091 |
| 役員賞与引当金 | | 58,776 |
| その他 | 482,441 | 928,256 |
| 固定負債 | 599,626 | 603,925 |
| 役員退職慰労引当金 | 440,400 | 449,000 |
| 繰延税金負債 | 147,010 | 153,703 |
| 退職給付引当金 | 10,516 | |
| その他 | 1,699 | 1,221 |
| 負債合計 | 4,028,372 | 4,616,957 |
| 少数株主持分 | - | - |
| [資本の部] | | |
| 資本金 | 983,100 | - |
| 資本剰余金 | 1,202,500 | - |
| 利益剰余金 | 8,711,240 | - |
| 株式等評価差額金 | 137,049 | - |
| 為替換算調整勘定 | 14,695 | - |
| 自己株式 | 14,054 | - |
| 資本合計 | 11,034,532 | - |
| 負債、少数株主持分及び資本合計 | 15,062,904 | - |
| [純資産の部] | | |
| 株主資本 | - | 12,266,469 |
| 資本金 | - | 983,100 |
| 資本剰余金 | - | 1,202,500 |
| 利益剰余金 | - | 10,095,680 |
| 自己株式 | - | 14,811 |
| 評価・換算差額等 | - | 143,326 |
| その他有価証券評価差額金 | - | 76,918 |
| 為替換算調整勘定 | - | 66,407 |
| 純資産合計 | - | 12,409,795 |
| 負債・純資産合計 | - | 17,026,753 |

損益計算書

(単位：千円)

| 科 目 | 前連結会計年度 自2005年4月1日 至2006年3月31日 | | 当連結会計年度 自2006年4月1日 至2007年3月31日 | |
|--------------|--------------------------------------|--|--------------------------------------|--|
| | | | | |
| 売上高 | 13,764,831 | | 16,216,965 | |
| 売上原価 | 8,619,682 | | 9,815,209 | |
| 売上総利益 | 5,145,149 | | 6,401,755 | |
| 販売費及び一般管理費 | 3,095,836 | | 3,571,427 | |
| 営業利益 | 2,049,312 | | 2,830,328 | |
| 営業外収益 | 160,032 | | 216,432 | |
| 営業外費用 | 85,714 | | 202,826 | |
| 経常利益 | 2,123,631 | | 2,843,934 | |
| 特別利益 | 4,574 | | 106,895 | |
| 特別損失 | — | | 137,612 | |
| 税金等調整前当期純利益 | 2,128,205 | | 2,813,217 | |
| 法人税、住民税及び事業税 | 812,183 | | 1,043,546 | |
| 法人税等調整額 | 53,948 | | 4,216 | |
| 当期純利益 | 1,369,970 | | 1,765,454 | |

キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

| 科 目 | 前連結会計年度 自2005年4月1日 至2006年3月31日 | | 当連結会計年度 自2006年4月1日 至2007年3月31日 | |
|---------------------|--------------------------------------|--|--------------------------------------|--|
| | | | | |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,290,662 | | 2,039,832 | |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 1,452,009 | | 984,637 | |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 312,963 | | 277,794 | |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 86,412 | | 11,548 | |
| 現金及び現金同等物の増加額(は減少額) | 387,897 | | 788,949 | |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 4,034,513 | | 3,646,615 | |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 3,646,615 | | 4,435,565 | |

株主資本等変動計算書

当連結会計年度(自2006年4月1日 至2007年3月31日)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | | 評価・換算差額等 | | | 純資産合計 |
|-------------------------------|---------|-----------|------------|--------|------------|------------------|--------------|----------------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券 評価差額金 | 為替換算 調整勘定 | 評価・換算 差額等合計 | |
| 2006年3月31日残高 | 983,100 | 1,202,500 | 8,711,240 | 14,054 | 10,882,786 | 137,049 | 14,695 | 151,745 | 11,034,532 |
| 連結会計年度中の変動額 | | | | | | | | | |
| 役員賞与(注) | | | 63,300 | | 63,300 | | | | 63,300 |
| 剰余金の配当(注) | | | 211,809 | | 211,809 | | | | 211,809 |
| 剰余金の配当 | | | 105,904 | | 105,904 | | | | 105,904 |
| 当期純利益 | | | 1,765,454 | | 1,765,454 | | | | 1,765,454 |
| 自己株式の取得 | | | | 757 | 757 | | | | 757 |
| 株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額) | | | | | | 60,131 | 51,712 | 8,419 | 8,419 |
| 連結会計年度中の変動額合計 | | | 1,384,439 | 757 | 1,383,682 | 60,131 | 51,712 | 8,419 | 1,375,263 |
| 2007年3月31日残高 | 983,100 | 1,202,500 | 10,095,680 | 14,811 | 12,266,469 | 76,918 | 66,407 | 143,326 | 12,409,795 |

2006年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

財務諸表(単体)

貸借対照表

(単位：千円)

| 科 目 | 前事業年度 (2006年3月31日現在) | 当事業年度 (2007年3月31日現在) |
|----------|-------------------------|-------------------------|
| [資産の部] | | |
| 流動資産 | 8,695,017 | 9,835,926 |
| 固定資産 | 4,485,178 | 4,963,084 |
| 有形固定資産 | 2,501,525 | 2,808,315 |
| 無形固定資産 | 104,809 | 316,679 |
| 投資その他の資産 | 1,878,843 | 1,838,088 |
| 資 産 合 計 | 13,180,196 | 14,799,010 |
| [負債の部] | | |
| 流動負債 | 3,085,864 | 3,741,661 |
| 固定負債 | 453,995 | 449,000 |
| 負債合計 | 3,539,860 | 4,190,661 |
| [資本の部] | | |
| 資本金 | 983,100 | - |
| 資本剰余金 | 1,202,500 | - |
| 利益剰余金 | 7,335,943 | - |
| 株式等評価差額金 | 132,845 | - |
| 自己株式 | 14,054 | - |
| 資本合計 | 9,640,335 | - |
| 負債及び資本合計 | 13,180,196 | - |
| [純資産の部] | | |
| 株主資本 | - | 10,537,152 |
| 資本金 | - | 983,100 |
| 資本剰余金 | - | 1,202,500 |
| 利益剰余金 | - | 8,366,363 |
| 自己株式 | - | 14,811 |
| 評価・換算差額等 | - | 71,196 |
| 純資産合計 | - | 10,608,349 |
| 負債・純資産合計 | - | 14,799,010 |

損益計算書

(単位：千円)

| 科 目 | 前事業年度 (自2005年4月1日 至2006年3月31日) | 当事業年度 (自2006年4月1日 至2007年3月31日) |
|--------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 売上高 | 11,697,914 | 14,235,353 |
| 売上原価 | 8,013,045 | 9,380,287 |
| 売上総利益 | 3,684,869 | 4,855,065 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,493,862 | 2,902,442 |
| 営業利益 | 1,191,006 | 1,952,623 |
| 営業外収益 | 377,742 | 302,045 |
| 営業外費用 | 81,926 | 100,843 |
| 経常利益 | 1,486,822 | 2,153,825 |
| 特別利益 | 1,187 | 141,495 |
| 特別損失 | - | 137,612 |
| 税引前当期純利益 | 1,488,010 | 2,157,708 |
| 法人税・住民税及び事業税 | 554,000 | 732,000 |
| 法人税等調整額 | 54,481 | 14,274 |
| 当期純利益 | 988,492 | 1,411,434 |
| 前期繰越利益 | 2,016,789 | - |
| 中間配当額 | 105,917 | - |
| 当期末処分利益 | 2,899,364 | - |

利益配分に関する基本方針

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題として認識しており、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的な配当の継続を基本とし、業績に応じて積極的な株主還元を行うことを基本方針としています。以上の方針に基づき、当期の利益配当につきましては、1株当たり中間配当10円、期末配当は普通配当10円、記念配当10円とし、年間30円といたしました。

ホームページ

<http://www.jem-net.co.jp>

当社ホームページでは、投資家情報といたしまして、株主、投資家の皆様へ向けて当社の概要および業績をご説明しています。またIRライブラリ・スケジュールなど最新の情報がご覧いただけます。ぜひご覧下さい。

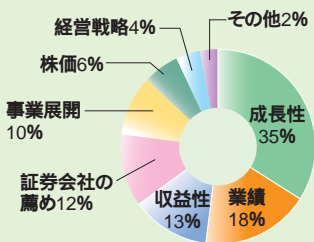


株主様アンケート結果のご報告

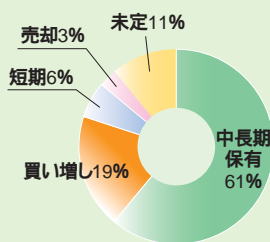
昨年発行いたしました第48期中間期のご報告「JEM TODAY」に対して株主の皆様から377通ものアンケートに対するご返信をいただきました。このページでは皆様から寄せられたご意見と、その集計結果を紹介させていただきます。

株主の皆様からのアンケート集計結果

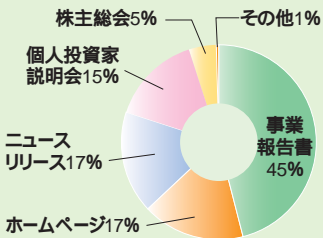
株式購入ポイント



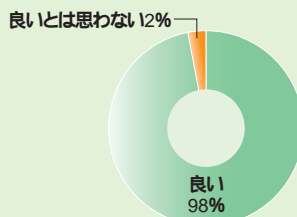
今後の株式に対する考え



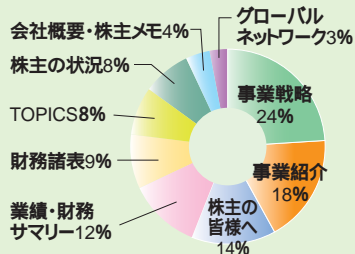
IRで重視すべきこと



株主優待に対するご意見



JEM TODAYで興味を持った内容



株主の皆様からのご質問への回答

Q | 変動の激しい半導体マーケットに対するリスク対応策は?

A | まず、半導体業界の変動については業界特有の「シリコンサイクル」といわれる景気変動の波があります。これは半導体の用途がパソコンに依存していたときに顕著でしたが、現在では、デジタル家電や携帯電話などへの半導体の用途拡大により、徐々に変動の波が小さくなってきています。

次にプロブカードの変動についてですが、プロブカードは半導体の種類毎の需要や製品サイクルによる需要もあるため、消耗品の性質が濃く半導体の生産に応じて一定量が必要となります。もちろんシリコンサイクルの影響は確実に受けますが、装置産業などに比べると変動が小さい傾向があります。

このような中で当社は、より安定的な売上を確保するため、売上の50%程度をロジック向けとすることによって半導体マーケットのリスク軽減に努めています。これは、半導体のメモリー(記憶する半導体)市場は需要変動が大きいのですが、ロジック(演算する半導体)市場は用途の裾野が広く、製造メーカーも数多くありますので、比較的安定した需要が見込めるからです。

その他、皆様から「IRをさらに充実させてほしい」、「個人投資家向け説明会は続けてほしい」、「優待にびっくりした」などご支援、ご鞭撻の言葉をたくさん頂きました。

本当にありがとうございました。今後も皆様からのご意見を活かすことで、さらに内容を充実させていきたいと思っております。

株式の状況

株式事項(2007年3月31日現在)

発行可能株式総数 40,000,000株

発行済株式の総数 10,604,880株

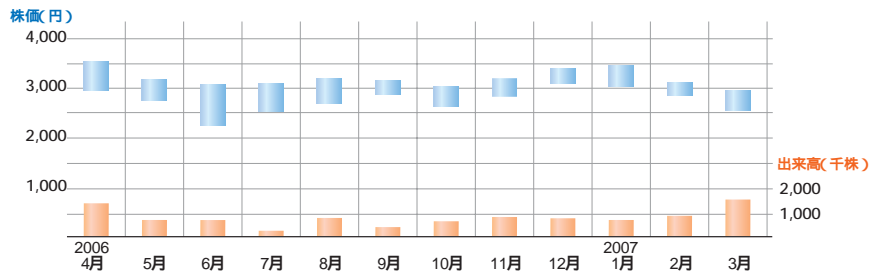
株主数 3,660名

大株主(2007年3月31日現在)

| 株主名 | 当社への出資状況 | |
|--|----------|---------|
| | 持株数(千株) | 出資比率(%) |
| (有) 大 久 保 興 産 | 1,131 | 10.68 |
| 日本マスタートラスト信託銀行(株) | 676 | 6.38 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行(株) | 564 | 5.33 |
| 大 久 保 和 正 | 435 | 4.11 |
| 大 久 保 英 正 | 406 | 3.83 |
| 大 久 保 昌 男 | 392 | 3.70 |
| ザチェースマンハットンバンクエヌエイ ロンドンエスエルオムニバスアカウント | 378 | 3.57 |
| (株) 三 菱 東 京 U F J 銀 行 | 343 | 3.24 |
| 古 山 陽 一 | 274 | 2.59 |
| ミ ッ ク ス | 237 | 2.23 |

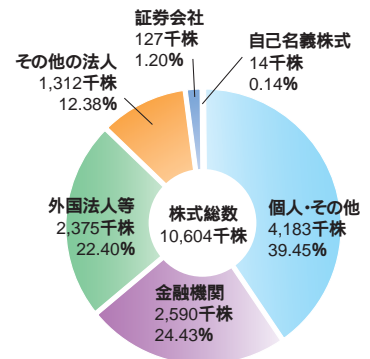
(注)出資比率は、自己株式(14,611株)を控除して計算しております。

株価チャート

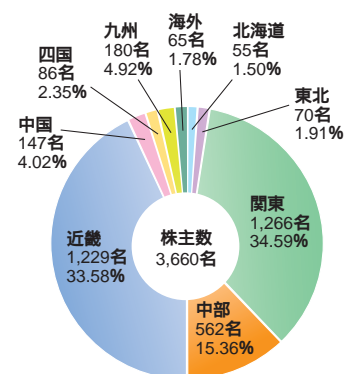


株式分布状況(2007年3月31日現在)

所有者別株式数



地域別分布状況(株主数)



会社概要・株主メモ

会社概要

| | |
|-------|--|
| 社名 | 日本電子材料株式会社 |
| 英訳名 | JAPAN ELECTRONIC MATERIALS CORPORATION |
| 設立 | 1960年4月6日 |
| 資本金 | 983,100千円 |
| 事業内容 | 半導体検査用部品 ・カンチレバー型(Cタイプ)プローブカード プローブ(針)の形状が力学でいう片持ち梁(cantilever)の構造を持ち、一般的に使用されているタイプです。 CEシリーズ ・アドバンスト(Vタイプ)プローブカード プローブ(針)の形状が垂直型で主として半導体の高集積化・高速化対応として使用されているタイプです。 VCシリーズ(垂直接触型) VSシリーズ(垂直スプリング接触型) |
| 株式市場 | 電子管部品 ・CRTヒーター、フィラメント、陰極各種ヒーター等 東京証券取引所市場第1部 |
| 証券コード | 6855 |

役員 (2007年6月22日現在)

| | |
|---------|---------|
| 取締役会長 | 大久保 昌 男 |
| 代表取締役社長 | 坂 根 英 生 |
| 常務取締役 | 大久保 和 正 |
| 常務取締役 | 石 田 進 |
| 取締役 | 厚 地 義 尚 |
| 取締役 | 古 崎 新一郎 |
| 取締役 | 大 澤 茂 巳 |
| 常勤監査役 | 幸 王 泰 久 |
| 監査役 | 嶋 田 義 行 |
| 監査役 | 豎 山 義 三 |

株主メモ

| | |
|------------------------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月中 |
| 基準日 | 定時株主総会...3月31日(その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。) 剰余金の配当...期末配当 3月31日・中間配当 9月30日 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 株主名簿管理人 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱場所 (お問い合わせ先) | 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話(通話料無料) ☎0120-094-777 |
| 同 取 次 所 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店 株式会社関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。 電話(通話料無料) ☎0120-244-479(本店証券代行部) ☎0120-684-479(大阪証券代行部) インターネットホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/ |
| 単元未満株式会社の買取請求取扱場所 | 上記株主名簿管理人の事務取扱場所および同取次所でお取扱いいたします。 なお、「株券等の保管振替制度」をご利用の株主様は、お取引証券会社等を経由してご請求ください。 |
| 公 告 方 法 | 日本経済新聞に掲載して行います。 |



<http://www.jem-net.co.jp>

R100

古紙配合率100%の
再生紙を使用しています



環境に配慮して大豆油インキ
で印刷しています